

保育園で感染しやすい疾患と登園の目安

しっかんめい 疾患名	せんぷくきかん 潜伏期間	かんせんけいろ 感染経路	おも しょうじょう 主な症状	とうえん 登園のめやす
ましん 麻疹(はしか)	8~12日	ひまつかんせん 飛沫感染・ せつしよくかんせん 接触感染 くうきかんせん 空気感染	しよき こうねつ せき はなみず けつまくしゅうけつ めやに 初期は高熱・咳・鼻水・結膜充血・目やに はつねつ いちじきかこうけいこう しめ ふただ じょうしょう 発熱は一時期下降傾向を示すが、再び上昇 する(この頃に口の中に白いぶつぶつ) その後、かお けいぶ ほうしん が出る	げねつ あと か けいか 解熱した後3日を経過していること
インフルエンザ	1~4日	ひまつかんせん 飛沫感染・ せつしよくかんせん 接触感染	とつぜん こうねつ が 3~4 日続く けんたいかん きんにくつう かんせつつう はなしょうじょう いん 倦怠感・筋肉痛・関節痛・鼻症状・咽 とうつう せき 頭痛・咳	はっしょうご か けいか 発症後5日を経過し、かつ解熱した後 3日を経過するまで(解熱日は0日目と する)
ふうしん 風疹	16~18日	ひまつかんせん 飛沫感染・ せつしよくかんせん 接触感染	ほうしん かお けいぶ しゅうげん ぜんしん へと かくだい 発疹が顔や頸部に出現し全身へと拡大する はつねつ 発熱やリンパ節腫脹を伴うことが多い あかん けんたいかん がんきゅうけつまくしゅうけつ ともな 悪寒・倦怠感・眼球結膜充血を伴うことが ある	ほうしん しょうじつ 発疹が消失していること
すいとう 水痘(水ぼうそう)	14~16日	ひまつかんせん 飛沫感染・ くうきかんせん 空気感染	ほうしん かお とうぶ しゅうげん ぜんしん へと かくだい 発疹が顔や頸部に出現し全身へと拡大する はんでんじょう あか きゅうしん すいぼう か ひ 斑点状の赤い丘疹→水疱→痂皮(かさぶ た)それぞれの発疹が混在する	すべての発疹がかさぶたになってから
りゅうこうせいじかせんえん 流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	16~18日	だえき かい ひまつかん 唾液を介した飛沫感 せん せつしよくかんせん 染・接触感染	はつねつ だえきせん じかせん ぜつかせん がつかせん 発熱・唾液腺(耳下腺・舌下腺・顎下腺)の しゅちよう とうつう 腫脹・疼痛	じかせん がつかせん ぜつかせん は 耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫れが発症 してから5日を経過し、かつ全身状態が りょうこう 良好になるまで
けっかく 結核	3か月~数10年 感染後2年以内 特に6ヶ月以内が多い	くうきかんせん 空気感染	まんせいでき はつねつ ひねつ せき つか 慢性的な発熱(微熱)・咳・疲れやすさ・ しょくよくふしん かおいろ わる 食欲不振・顔色の悪さ	いしによりかんせんのおそれがないと認めら れていること

いんとうけつまくねつ 咽頭結膜熱(フェール熱)	2~14日	ひまつかんせん 飛沫感染・接触感染	こうねつ 高熱・扁桃腺炎・結膜炎	はつねつ じゅうけつとう おち しょうじょう しょうしつ 発熱・充血等の主な症状が消失した あと2日を経過していること
りゅうこうせいかくけつまくえん 流行性角結膜炎(はやり目)	7~10日	ひまつかんせん 飛沫感染・接触感染	め じゅうけつ め 目の充血・目やに めに膜が張ることもある	けつまくえん しょうじょう しょうしつ 結膜炎の症状が消失していること
ひやくにちせき 百日咳	7~10日	ひまつかんせん 飛沫感染・接触感染	とくゆう せき 特有の咳(コンコンとせき込んだ後、ヒュー と笛を吹くような音をたてて息を吸う) 連続性・発作性の咳が長期に続く	とくゆう せき しょうしつ 特有な咳が消失していること又は5日間 の適正な抗菌薬による治療が終了して いること
ちようかんしゅつけつせいたいちようきんかんせんしやう 腸管出血性大腸菌感染症	10時間~16日	きん ぶちやく いんしよくぶつ 菌が付着した飲食物か らの経口感染・接触 感染	すいばうげりべん ぶくつう けつべん 水様下痢便・腹痛・血便	いし かんせん 医師において感染のおそれがないと認め られていること 5歳未満の子どもでは2回以上連続で便か らの菌が検出されなくなり、全身状態 が良好であること
きゅうせいしゅつけつせいかくまけん 急性出血性結膜炎	平均24時間 又は2~3日	ひまつかんせん 飛沫感染・接触感染	つよ め いた め けつまく ほかん ぶぶん 強い目の痛み・目の結膜(白眼の部分)の 充血・結膜下出血・目やに・角膜の混濁	いし かんせん おそ 医師により感染の恐れがないと認められ ること
しんしゅつせいぜいまくえんきんかんせんしやう 侵襲性髄膜炎菌感染症 (髄膜炎菌性髄膜炎)	よっかい以内	ひまつかんせん 飛沫感染・接触感染	はつねつ まつう おうと 発熱・頭痛・嘔吐	いし かんせん おそ 医師において感染の恐れがないと認めら れていること
ようれんきんかんせんしやう 溶連菌感染症	2~5日	ひまつかんせん 飛沫感染・接触感染・ しよくひん かい けいこう 食品を介しての経口 感染	へんとうえん だんせんせいろうかしん 扁桃炎・伝染性膿痂疹(とびひ)・中耳炎・ はいえん かのうせいいかんせつえん こつすいえん すいまくえん 肺炎・化膿性関節炎・骨髓炎・髄膜炎など	こうきんやく ないふくご じかん けいか 抗菌薬の内服後24~48時間を経過して いること
まいこふらすまはいえん マイコプラズマ肺炎	2~3週間	ひまつかんせん 飛沫感染	せき はいえん ひ お 咳・肺炎を引き起こす せき はつねつ まつう 咳・発熱・頭痛などのかぜ症状がゆっくり 進行する	はつねつ はげ せき おさ 発熱や激しい咳が治まっていること

<p>てあしくちびょう 手足口病</p>	<p>3～6日</p>	<p>ひまつかんせん 飛沫感染・接 触感染・ けいこうかんせん 経口感染</p>	<p>こうくうねんまく てあし まったん すいほうせいほっしん しょう 口腔粘膜と手足の末端に水疱性発疹が生じる はつねつ いた ともな すいほう みず 発熱とのどの痛みを伴う水疱（水ぶくれ）が こうくうない たえき ぶ てあし まったん 口腔内にでき、唾液が増え、手足の末端・お しりなどに水疱が生じる</p>	<p>はつねつ こうくうない すいほう かいよう えいきょう 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がな く、普段の食事がとれること</p>
<p>でんせんせいこうはん 伝染性紅斑(りんご病)</p>	<p>4～14日</p>	<p>ひまつかんせん 飛沫感染</p>	<p>はつねつ けんたいかん すつう きんにくつうなど けいび 発熱・倦怠感・頭痛・筋肉痛等の軽微な しょうじょう 症状 その後両側頬部に孤立性淡紅色斑丘疹が しゅつげん 出現</p>	<p>ぜんしんじょうたい よ 全身状態が良いこと</p>
<p>感染性胃腸炎 (ノロウイルス、ロタウイルス感染症)</p>	<p>ロタは1～3日 ノロは12～48時間</p>	<p>けいこうかんせん ひまつかんせん 経口感染・飛沫感染・ せつしよくかんせん 接 触感染</p>	<p>おうと げり 嘔吐・下痢 ロタウイルスはしばしば白色便となる</p>	<p>おうと げり しょうじょう 嘔吐・下痢などの症状がおさまり、 ふだん しょくじ 普段の食事ができるまで</p>
<p>ヘルパンギーナ</p>	<p>3～6日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染・接 触感染・ けいこうかんせん 経口感染</p>	<p>こうねつ いたみ いんどう あか ねんまく 高熱・のどの痛み・咽頭に赤い粘膜しんが見 つぎ すいほう みず られ、次に水疱（水ぶくれ）となり、潰瘍と なる</p>	<p>はつねつ こうくうない すいほう かいよう えいきょう 発熱や口腔内の水疱・潰瘍の影響がな く、普段の食事がとれること</p>
<p>RSウイルス感染症</p>	<p>4～6日</p>	<p>ひまつかんせん せつしよくかんせん 飛沫感染・接 触感染</p>	<p>にゅうようじき かんせん ばあい しょうじょう おおく せい 乳幼児期に感染した場合は症状が重く、生 ご げつ みにゅうじ じゅうじょう こんきゅうきしょうじょう 後6か月未満乳児では重症な呼吸器症状 を生じる 2さいいじょう さいかんせん ばあい かるいせき びじゅうていど 2歳以上で再感染した場合は軽い咳や鼻汁程度</p>	<p>こんきゅうきしょうじょう しょうじつ ぜんしんじょうたい よ 呼吸器症状が消失し、全身状態が良 いこと</p>
<p>たいじょうほうしん 帯状疱疹</p>	<p>不定</p>	<p>ぼたい にんしん しゅう 母体が妊娠20週から ぶんべん にちまえ すいとう 分娩21日前までに水痘 りかん ばっしょう を罹患すると発症する ことがある</p>	<p>けいど いたみ いわかん ばあい 軽度の痛みや違和感、場合によってはかゆみ があり、その後多数の水疱（水ぶくれ）が集 まり紅斑となる</p>	<p>すべての発疹が痂皮（かさぶた）化して いること</p>
<p>とっばつせいほっしん 突発性発疹</p>	<p>9～10日</p>	<p>おおく こ おとな 多くの子ども、大人の たえき しょうじはいしゅつ 唾液から常時排出され ており保護者や兄弟 しまい たえき など 姉妹などの唾液等から かんせん かんが 感染すると考えられて いる</p>	<p>みっかていど こうねつ あと げねつ 3日程度の高熱の後、解熱するとともに紅斑 が出現し、数日で消えてなくなる</p>	<p>げねつ きげん よ ぜんしんじょうたい よ 解熱し機嫌が良く全身状態が良いこと</p>

てきせつ たいおう もと かんせんしょう
適切な対応が求められる感染症

<p>しっかんめい 疾患名</p>	<p>せんかくきかん 潜伏期間</p>	<p>かんせんけいろ 感染経路</p>	<p>しょうじょう ぶくちょう 症状・特徴</p>	<p>りゅうい 留意すること</p>
<p>アタマジラミ症</p>	<p>10～30日 卵は7日で孵化</p>	<p>頭髮に直接接しやく、また体 や頭を寄せ合うことで感染 する 寝具やタオル、用具や施設の 共用で感染することがある</p>	<p>卵は頭髮の近くにあり白く見える フケのように見えるが、卵の場合はつま んでも容易に動かない 雌雄の成虫及び幼虫が頭皮から吸血 し、3～4週間後にかゆみができる</p>	<p>感染が確認された場合は、子どもの頭と頭を接しな いようにする 毎日シャンプーを行い、目の細かいクシで丁寧にシ ラミや卵を取り除く 感染したものと互いに感染させる恐れがあるた め、周囲の感染者一斉に治療することが感染防止 対策になる</p>
<p>疥癬</p>	<p>約1か月</p>	<p>ヒトからヒトに感染する リネン類や布団の共用で 感染することもある 直接的な接触が比較的 長時間あった場合にも感染 することもある</p>	<p>かゆみの強い発疹（丘疹・水疱（水ぶく れ）・膿疱・結節（しこり）等）ができる 手足などには線状の隆起した皮疹（疥癬 トンネル）もみられる 体などには丘疹ができる かゆみは夜間に強くなる</p>	<p>手に比較的多くのヒゼンダニ（病原体）があり、手 を介して感染することもあるため、日常的な手洗いの 励行などが重要である 下着などは毎日交換する 強いかゆみのある発疹がでたら皮膚科を受診する 治療を開始していれば、プールに入ってもかまわない</p>
<p>伝染性軟属腫</p>	<p>2～7週間</p>	<p>皮膚と皮膚の直接接しやくによる接しやくかんせん</p>	<p>1～5 mm（稀に1 cm程度）の常色～ 白～淡紅色の丘疹・小結節（しこり） である 多くの場合では、数個～数十個が集まっ ている 軽度のかゆみがある 個々の物は数ヶ月から半年にかけて自然 経過で治癒することもある</p>	<p>集団生活・水遊び・浴場等で皮膚と皮膚が接しやくす ることにより、周囲の子どもにも感染する可能性がある このため、伝染性軟属腫を衣類・包帯・耐水性ばんそ うこうなどで覆い、他の子どもへの感染を防ぐ プールに入っても構わないが上記のように留意する</p>

<p>でんせんせいのかしん 伝染性膿痂疹(とびひ)</p>	<p>とおか 2～10日</p>	<p>せつしよくかんせん 接触感染 かきむしったりすることで しつしん むしき ぶい 湿疹や、虫刺され部位などの ちいさなきず かい かんせん 小さな傷を介して感染する</p>	<p>すいほう みず 水疱(水ぶくれ)やびらん、痂皮(かさぶ た)が鼻周囲・体幹・四肢などの全身にみ られる</p>	<p>つめ みじか し、 ひん せいけつ 爪を短くし、皮膚を清潔にすることが大事である て かい かんせん 手を介して感染することもあるため、日常的な手洗 いが重要である びょうへんぶん がいようやく しよち しみしゅつえき し で 病変部を外用薬で処置し、浸出液が染み出ないよう にガーゼ等で覆ってれば通園可能</p>
<p>がたかんえん B型肝炎(HBV)</p>	<p>きゅうせいのかんせん 急性感染では 45～160日 (平均90日)</p>	<p>かんせんしゆ けつえき たにん ひん 感染者の血液が他人の皮膚 ねんまく にできた きず から たいない に入ることで感染 はい かんせん 唾液・涙・汗・尿などにも だえき なみだ あせ によう ウイルスが存在するため、 かんせんげん 感染源になりうる</p>	<p>ウイルスが肝臓に感染し、炎症を起こす 0歳児で感染した場合は約9割がキャリア (持続感染者)となる 5歳児でも約1割がキャリア化する キャリア化しても 85～90%は治療を 必要としないが、残りの多くは思春期 以降に慢性肝炎を発症し、一部は肝硬変 や肝がんに進展する可能性がある</p>	<p>ちつと こうか てき かんせんかくだいぼうしさく 最も効果的な感染拡大防止策はHBワクチンの接種 である HBワクチンは安全で効果の高いワクチンである 3回の接種でほとんどの人が免疫を獲得することが 可能である げんざいていきせつしゆ じつし 現在定期接種として実施されているが、対象でない 子どもについてもワクチンの接種を済ませておくこ とが重要である</p>

こうせいろうどうしやう ほいくしよ かんせんしやうたいさく ねんかいていばん さんしやう
※厚生労働省「保育所における感染症対策ガイドライン(2018年改訂版)」参照